

関島寿子 かごについてのかご

Hisako Sekijima
Baskets About Baskets

2026 年 11 月 14 日(土)～2027 年 3 月 22 日(月・休)

前期:11 月 14 日(土)～1 月 11 日(月・祝)

後期:1 月 19 日(火)～3 月 22 日(月・休) ※展示替えを行います。



「把 VIII／Grasp VIII」2026 年

菊池寛実記念 智美術館

東京都港区虎ノ門 4-1-35 TEL:03-5733-5131 info@musee-tomo.or.jp

平素より、菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。
この度は、2026 年 11 月 14 日から 2027 年 3 月 22 日まで開催いたします「**関島寿子 か
ごについてのかご**」展につきまして、第2弾のご案内をお送りいたします。第1弾では「概
念を編む」としていましたが、同じ意味で、伝わりやすい表現を考え変更いたしました。

関島寿子（せきじま・ひさこ／1944～）は植物素材でバスケットリー作品を制作しています。バスケットリーとは籠を編む方法、またはその方法で作られたものを指します。しかし「かご」はかごでも、関島の作品は物を入れるための籠ではありません。素材を編む方法を編組（へんそ）ともいいますが、関島はその編組の原理に着目し、「絡める」「結ぶ」「組む」「織る」などの基本的な構築法と、植物素材が持つ多様な特性、その組み合わせによってできる造形についての思考をかたちにします。疑問や仮説、そこからの発見を起点に展開する関島の思考そのものが作品であり、それを造形に変換するところに技術と見どころがあります。

1970 年代後半に関島は約 4 年間滞在したニューヨークでアメリカの工芸に出合います。そこで古来の手法を現代の表現に変える制作を目の当たりにし、テキスタイルアートとしてかごを捉える視点を得ました。そして帰国後、日本の民具を入りに洋の東西を問わず編組による古い道具を見直し、先行する研究に学びながら、普遍的な観点で編組を捉えて思考を展開する制作スタイルを確立していきます。

分析的な関島の作品には、考えることの愉しさや発見に伴う感動が満ちています。本展では、1980 年代から最新作までを通し、関島寿子の編組造形における思考と実践を追います。

形に夢中になるのではなく、原理に感動する一

かたちができる過程は確かに神秘的だ。だが私は感情的にそれに陶酔してしまう代わりに、逆に目を開いて、その理由の分るところまで見究めたい

素材と構築法の連係が形態を制限する、という現実のどこに自分を割り込ませるか

その超然と存在するかごの造形原理と自己がどう接触するかを探っていく

関島寿子著『バスケットリーの定式』（平凡社）より

【本展のポイント】

- ・編組の原理そのものを探究し、造形として可視化する独自のアプローチ
- ・「形」ではなく「思考のプロセス」を作品化する分析的な制作態度
- ・素材×構築法×形態の関係を体系化し、その枠外に作品を位置づける方法論

「関島寿子の思考と作品について」詳細はこちらから↓

「かごについての『かご』」

私は長年樹皮や蔓などを組織して、かごに似た小立体を作ってきた。かごのかたちや機能には、パズルのようにいろいろな観念が組み込まれているものだと魅了される。再発見した面白さを私の暗号に置き換えて、再びかたちに仕立てていく。これが私のかご作りで、言うなら「かごについてのかご」を作っているわけだ。



1, 「空間の合奏 II / Interacted Void II」 2003 年 h20.0 cm

関島寿子のかごの構築法を「絡める」「結ぶ」「組む」「巻く」「織る」「捩る（もじる）」の6種類に分類する。重要なのは構造の原理であるため、例えば「網代編み」と「麻の葉編み」は編み目の文様としては異なっても、構造としては同じ「組む」に分類される。

用いる素材はクワ、ヒノキ、ヤナギ、コウゾなど、庭で栽培可能な一般的な植物の皮や茎、葉であるが、形状や硬度、反発力といった素材が持つ個々の性質にあわせて各構築法が選択される。そして、素材の性質と構築法の組み合わせによって形態が決まる、という三者の関係性を関島は自身の視点で整理して思考の土台としている。

歴史的な視点が制作を明確にする

なわを綯う（なう）、糸を縫る（よる）など、繊維を捻って太くしたり、長くする技術は編組や織物の基本である。捻りの力や持続をストレートに反映していて、なわや糸はそれ自体が美しいのだ。「なわの記録」は繊維を綯うという作業に特別の興味を持つようになって以来作っているシリーズである。「なわの記録Ⅱ」（左図）はなわを綯いながら一定の時間ごとに赤い布を挟んだ。なわの目が時間の経過を記している。「なわの記録Ⅲ」（次頁）では、



一定の回数縫っては前段の目を拾うことを繰り返し、目数を数えるという、編み物や織物に特有の行為を意識しながら、立体化した。

繊維技術の先史或いは古代史を扱った『WOMEN'S WORK』と言う本を読んで、人類が繊維に撚りを掛けて糸やひも縄を作り始め時期を約 25,000 年前と推定し、それを STRING REVOLUTION と呼んで、重要性を主張している のを知った。19 世紀の産業革命（INDUSTRIAL REVOLUTION）でも繊維工業の技術革新が象徴的な出来事だったこととど

2, 「なわの記録Ⅱ / Re-cord II」 2007 年 h29.0 cm



3, 「なわの記録Ⅲ／Re-cord Ⅲ」2007 年 w39.0 cm

こか通じるものを感じ心が躍った。それまでは材料の準備としてひたすら縋っていただけだったのだが、これ以後『縋うことの形態的面白さや、構築上の役目などを直接表現した形』を作ることを考えるようになった。

歴史的な視点から興味を持つと、製作意識が明確になることが面白いと思う。かご作りには、素材の性質をいかに利用して構築し、目的を果たすかという工夫、つまり原始時代に始まる技術の種々の素型が単純な姿で詰まっている。そのため、造形に有効な観念として把握し易いのだ。それを改めて自分の形の核として使う。私にとって、これがかご作りの魅力の一つである。



4, 「束の間 Ⅱ／Bound to Continue Ⅱ」2008 年

関島が分析的な態度で制作に取り組むようになる契機は、1970 年代後半、アメリカの工芸との出会いにある。工芸センターの講座やアメリカ現代工芸館の企画展、さらにはエド・ロスバックやジョン・マックウィーンといったアメリカのバスケットリーを代表する作家たちの作品を通して、既成の技術を見直し、表現手法へ転化していく制作姿勢を目の当たりにした。そして、籠をテキスタイルアートとして制作するという視点を得たのであった。

しかし、だからといって、関島の制作はアメリカ工芸の系譜に留まるものではないであろ

う。それは、自身のアイデンティティがアメリカに根差しはしないことに自覚的であったからでもあるが、日本の民具を入りに、洋の東西を問わず古来の編組による様々な道具を観察し、他者の研究から学び、編組の原理を追究することによって、自力で獲得したより普遍的な視点でその制作が為されているからである。

技術そのものを鵜呑みにせず、個々の方法を自分の観念に塗り直す—



5, 「空間を振る Ⅰ／Twisted Space Ⅰ」2007 年 h23.0 cm



このような方法が単純に見えるのは、初歩的だからではなく技術の根本に近いからでもあるだろう。

創作が既にある技術の複合ではないとすれば、先へ進むほど、元の技術はその人なりに分解されて単純になっていく。



6, 「束の束 II/Bundles II」 2025 年 h13.5 cm

7, 「立体的曲折<60° III /
Turns for the Depth<60° III」
2025 年 h21.0 cm

■関連行事

◎アーティストトーク

自身の制作について伺います。

11月28日（土）、2月6日（土）15時から B1 展示室にて

◎対談「民具の技とかごの造形」

神野善治（日本民具学会会長、武蔵野美術大学名誉教授）× 関島寿子

12月12日（土）15時から B1 展示室にて

◎「概念を編むー技術の再定義」

島崎慶子（菊池寛実記念 智美術館学芸課長）

2月20日（土）15時から B1 展示室にて

◎学芸員のギャラリートーク

いずれも土曜日、15時から。B1 展示室にて

11月21日／12月19日／1月23日／3月6日

■ 展覧会概要 ■

- 展覧会名 「関島寿子 かごについてのかご」展
- 会 期 2026 年 11 月 14 日（土）～2027 年 3 月 22 日（月・休）
前期：11 月 14 日（土）～1 月 11 日（月・祝）
後期：1 月 19 日（火）～3 月 22 日（月・休）
- 主 催 公益財団法人菊池美術財団、日本経済新聞社
- 協 賛 株式会社南悠商社、京葉ガス株式会社
- 会 場 菊池寛実記念 智美術館
- 開館時間 11:00～18:00（最終入館 17:30）
- 観 覧 料 一般：1,500 円 大学生：1,000 円 高校生以下：無料
- 休 館 日 月曜日（ただし 11 月 23 日、2027 年 1 月 11 日、3 月 22 日は開館）、11 月 24 日（火）、年末年始（12 月 28 日～1 月 1 日）、展示替期間（1 月 12 日～18 日）
- 作品内容 1980 年代から最新作まで約 100 点。会期中に休館し、展示替えいたします。

◎ 展示室修繕工事のお知らせ

当館では現在、展示室の修繕工事を行っています。本展より、展示室内の色彩と質感を新たに、現代の工芸作品をご覧ください。現在の展示室（写真）がどのように変化するか、お楽しみに！



左右：修繕工事前の展示室



横浜のアトリエにて

■関島寿子 略歴（1944ー）

- | | | | |
|------|---|------|--|
| 1944 | 台湾に生まれる | 1999 | 「Nature As Designer」展（西オーストラリア美術館） |
| 1966 | 津田塾大学英文科卒業 | | 「世界を編む」展（横浜美術館） |
| 1975 | ニューヨークに住み（～79年）創作を始める | 2002 | 個展「エレガント空間」（東京国際フォーラム） |
| 1976 | サンドラ・ニューマンにアメリカにおけるネイティブのバスケットリー技法を学ぶ | 2005 | 「愛知万博記念展アジアの潜在カー海と島が育んだ美術」（愛知県美術館） |
| 1978 | ジョン・マックウィーンに現代的アプローチを学ぶ | 2011 | 「Fiber Futures: Japan's Textile Pioneers」（多摩美術大学美術館、ニューヨーク Japan Society、他欧州各地に巡回） |
| 1984 | 個展「Nature Transformed」（ウェイヴィル・ハウスギャラリー/N.Y.）
以後、マズダスタジオ（東京）、三春堂（東京）、マロニエ（京都）、ギャラリー千疋屋（東京）、ギャラリーいそがや（東京）、現代陶芸「寛土里」（東京）、中長小西（東京）、t-gallery（東京）、ギャラリー日日（東京・京都）、ブラウングロッタギャラリー（コネチカット州）など個展多数 | 2012 | 「糸の先へ」（福岡県立美術館）
「現代の座標：現代工芸の11の思考」（東京国立近代美術館） |
| 1986 | 自著『BASKETRY』（講談社インターナショナル）刊行 | 2014 | 「陶の空間草木の空間、川崎毅と関島寿子」（菊池寛実記念 智美術館） |
| 1988 | 自著『バスケットリーの定式』（住まいの図書館出版局）刊行 | 2016 | 「Box Project: Uncommon Threads」（Fowler Museum, UCLA、企画・Lloyd Gotsen 美術研究財団） |
| 1991 | 「素材の作るかたち」NHK制作放送VTR、工房探訪シリーズ | 2017 | 「交わる・いと「あいだ」をひらく術として」（広島市現代美術館） |
| 1994 | 「素材の領分」展（東京国立近代美術館）出品 | 2018 | 「From Nature: Contemporary Artists and Organic Materials」（ラシヌ美術館／米ウイスコンシン州） |
| 1995 | 「日本のスタジオ・クラフト」展（ヴィクトリア&アルバート博物館/イギリス）出品 | 2024 | 「エ+藝 2024」（東京美術倶楽部）
自著『バスケットリーの定式』平凡社より改訂新版刊行 |
| 1998 | 「幻想植物園」展（平塚美術館） | | |
- 現在：多摩美術大学生産デザイン学科テキスタイル客員教授、金沢美術工芸大学非常勤講師

【パブリックコレクション】

東京国立近代美術館、和歌山県立近代美術館、横浜美術館、菊池寛実記念 智美術館（東京）、ヴィクトリア&アルバート博物館（イギリス）、ヒューストン美術館（アメリカ、テキサス州）、ラシヌ美術館（アメリカ、ウイスコンシン州）、エリー美術館（アメリカ、ペンシルヴァニア州）、ロングビーチ美術館（アメリカ、カリフォルニア）、西オーストラリア美術館（パース）、アーカンサスアートセンター（アメリカ、アーカンサス州）、ロングハウス・リザーヴ財団（ニューヨーク州）、ハワイ州立文化芸術財団（アメリカ）、ロイド・コツウェン・コレクション、他

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースに紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。
申込書のご希望の作品に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。
ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。
お貸し出しする画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。
作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書のチケット希望欄に☑をしてください。

お問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館（展覧会担当：島崎）・（画像貸出申請：新明）

掲載・画像貸出申込書

e-mail: info@musee-tomo.or.jp

●貴社基本情報

会社名：	
担当部署：	担当者名：
住所：	
電話・FAX	E-MAIL：

●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名：	
	発行日：	発売日：
TV ラジオ	媒体名：	
	放送日：	放送時間：
ネット	URL：	

●画像貸出リスト ※キャプションには作者・作品名・制作年・撮影者を必ず入れてください。

希望作品に☑	作品キャプション
表紙□	「把 VIII／Grasp VIII」2026 年 h40.0 cm ジャスミン、クルミ 撮影者：渡邊有紀
1, □	「空間の合奏 II／Interacted Void II」2003 年 h20.0 cm ヒノキ 撮影者：渡邊有紀
2, □	「なわの記録 II／Re-cord II」2007 年 h29.0 cm ヘクソカズラ、絹（紅） 撮影者：渡邊有紀
3, □	「なわの記録 III／Re-cord III」2007 年 w39.0 cm クルミ 撮影者：渡邊有紀
4, □	「束の間 II／Bound to Continue II」2008 年 h20.0 cm エノキ、ケヤキ、アケビ 撮影者：渡邊有紀
5, □	「空間を振る I／Twisted Space I」2007 年 h23.0 cm ヘクソカズラ 撮影者：渡邊有紀
6, □	「束の束 II／Bundles II」2025 年 h13.5 cm ムクエノキ 撮影者：渡邊有紀
7, □	「立体的曲折＜60° III／Turns for the Depth＜60° III」2025 年 h21.0 cm オカメザサ、麻、膠、木炭 撮影者：渡邊有紀

●読者プレゼント用チケット希望： □5 組 10 名様 □10 組 20 名様

プレスプレビューのご案内

展覧会の趣旨、作品解説など、内覧会に先立ちましてプレスの皆様にご説明申し上げます。
ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

プレスプレビュー 2026年11月13日（金） 14:00 ～

14:00 ～14:45 展示室にて、展覧会のご説明、作品解説などを行います。
展覧会の会場内をご撮影いただけます。

14:45 ～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

会場： 菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1
・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6 分
・日比谷線・虎ノ門ヒルズ駅：出口 A2a 徒歩 8 分
・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8 分
・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8 分
・銀座線・虎ノ門駅： 出口 3 より徒歩 10 分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、E-mail もしくは FAX にて

ご返信下さい。 **E-mail** info@musee-tomo.or.jp

FAX 03-5733-5132

会社名：

担当部署、氏名

住所：

電話：

FAX：

Email